

先の 10 月 21 日(日)に行われた平成 19 年秋の情報処理技術者試験について、先月発表された基本情報 / 初級シスアド試験を除く、6 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、上級システムアドミニストレータ試験の合格発表コメントをお知らせします。

上級システムアドミニストレータ試験(SD)

[平成 19 年秋期の上級システムアドミニストレータ試験 統計情報]

応募者	3,214 人
受験者	1,882 人
合格者	221 人
合格率	11.7%

今回の平成 19 年秋試験では、昨年同時期の平成 18 年秋の試験に比べ応募者が若干減りました。合格率は前回同様に、これまでで高めの 11.7%でした。今回の試験の傾向や特徴をまとめると、次のようになります。

[午前問題]

- ・過去問題の比率は約 7 割でした。他の試験との重複出題も多く、新試験でいっしょになるシステムアナリスト試験とは 55 問中 40 問が同じ問題でした。計算問題でやや難しい問題がありましたが、全体には従来どおりのレベルで解きやすかったといえます。
- ・新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

問 8 Web コンテンツの管理システム

問 15 プロジェクト作業配分モデルによる工数見積

問 20 データ圧縮伸張ソフトウェアの導入効果

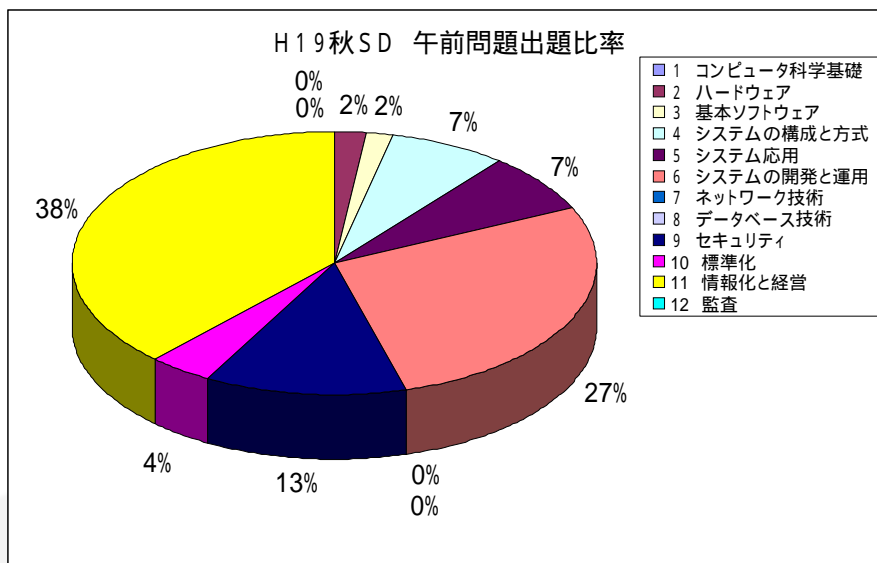
問 24 ピラミッドストラクチャ

問 27 迷惑メールのヘッダから組織を特定する手掛かり

問 34 文字コードによるデータ圧縮方式

問 41 キャッシュフロー計算書

平成 19 年秋期の上級システムアドミニストレータ試験 午前問題出題比率



〔午後問題〕

・午後 問題の出題分野とテーマは次のとおりです。設問の意味を正しく読み取らないと間違えやすい問 2 と問 3 が、やや難しい問題だったといえます。

- 問 1 資格取得のための通信教育運営業務の改善
- 問 2 レストランチェーンにおける取引先との情報共有
- 問 3 求人情報誌の編集業務の改善
- 問 4 自動車販売会社における顧客情報の活用

・午後 問題の出題分野とテーマは次のとおりです。

問題内容が、さまざまな業種で共通するテーマで記述しやすいといえます。データ活用をテーマとした問題は良く出題されます。

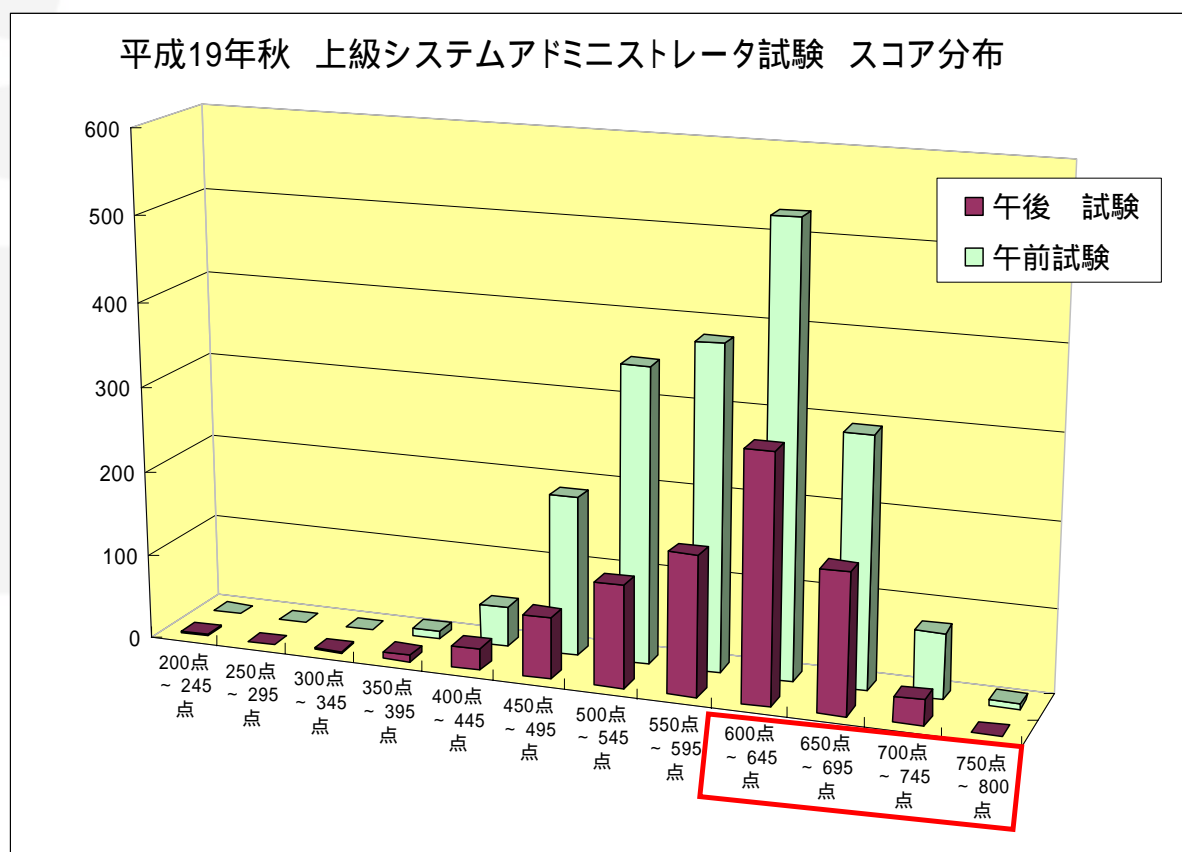
- 問 1 経営環境の変化に対応した情報システムの見直し
- 問 2 コスト低減のためのデータ活用
- 問 3 トラブル対策に関する情報システム構築段階からの取組み

発表された上級システムアドミニストレータ試験のスコア分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

[平成 19 年秋 上級システムアドミニストレータ試験 スコア分布]

スコア	午前試験	午後 試験	午後 試験	合格者
200点 ~ 245点	0	2	評価 D 71	
250点 ~ 295点	0	0		
300点 ~ 345点	0	2		
350点 ~ 395点	8	8	評価 C 46	
400点 ~ 445点	47	26		
450点 ~ 495点	188	73		
500点 ~ 545点	349	121	評価 B 146	
550点 ~ 595点	382	165		
600点 ~ 645点	529	291		
650点 ~ 695点	295	165	評価 A 221	221
700点 ~ 745点	77	30		
750点 ~ 800点	7	0		
計	1,882	883		
対前試験比率		46.9%	54.8%	45.7%
午前免除者(概数)				

合格者数		採点者数の割合	合格者数との差
午前 600 以上合計	908	48.2%	687
午後 600 以上合計	486	55.0%	265
午後 -A 評価	221	45.7%	0



ここで、午前試験で合格基準点のスコア 600 以上の人が 908 人(受験者の 48.2%)、午後 で合格基準点のスコア 600 以上を超えている人が 486 人(同 55.0%)、午後 で合格の評価 A の人(合格者)は 221 人(同 45.7%)でした。それぞれの試験の通過率はだいたい 5 割ぐらいになっています。論文の記述に慣れていない人は、午後 の論文対策はしっかり準備して、試験に臨む必要があります。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、今後の対策として、午前試験で出題される専門

知識の理解度をまず上げ、解答テクニックをしっかりと身につけてください。論文は通信教育で実施している添削サービスが効果的です。

(今回合格された人)

合格された方で来春のデータベースやテクニカルエンジニア(システム管理)、システム監査技術者などの試験を受けられる方は、試験の出題範囲がかなり変わるので、早めに学習することが必要です。特に、システム監査技術者試験は、専門知識の「監査」をしっかりと学びましょう。また、午後論文試験のものは、合格するために第三者の添削が欠かせません。弊社の通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックで出版している予想問題集、本試験問題は書店でもご購入いただけます。試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」は好評を頂いており特にお勧めです。

通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テスト(論文あり試験では添削含む)をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習時間3か月の「短期コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

(今回残念ながら不合格だった人)

今回の午前試験のスコアが500点~595点の人は、合格スコアの600までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。

また、午後試験のスコアが600点に満たなかった人は、確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたいうで問題を解く訓練を行うのが有効です。

この他、アイテックで出版している「午前に出る情報技術」や予想問題集、試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」、通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テスト(論文あり試験では添削含む)をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習時間3か月の「短期コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

(以上)